病院図書館　2007；27(4)：179-181

特集　コメディカル部門を知る　其の二

当院における管理栄養士の業務と役割について

和田　幸恵

Ⅰ．はじめに

関西労災病院は病床数642床、20診療科からなる地域基幹病院です。当院の理念「良質な医療を　働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために」を目標に日々努力しております。当院における管理栄養士の業務は給食管理と栄養管理であり、これらの業務とその役割について紹介します。

Ⅱ．給食管理

給食管理は、入院患者への食事提供を目的に行います。安全・安心かつ楽しみにしてもらえる食事を提供するために、献立作成・食材の発注は管理栄養士が行います。献立作成時は、調理師・下処理（食材の洗浄および切り込みを行う）担当者・盛り付け担当者らと打ち合わせし、さらに調理された食事を提供する前に管理栄養士が検食しています。また定期的に管理栄養士・調理師らが病棟訪問を行い、提供した食事の感想などを直接聞いて、より美味しく提供できるよう工夫しております。クリスマスやお正月をはじめとした行事食や、そこに添える行事カード（図1，2）に工夫を凝らすことで、単調になりがちな入院生活に季節感を演出することも腕の見せどころです。

給食管理は「食べる」という行為にかかわる大切な業務であり、次に紹介する栄養管理を行っても、食べることができなければ栄養管理はなかなかうまくいかないことが多いです。

図1　一般患者様向け

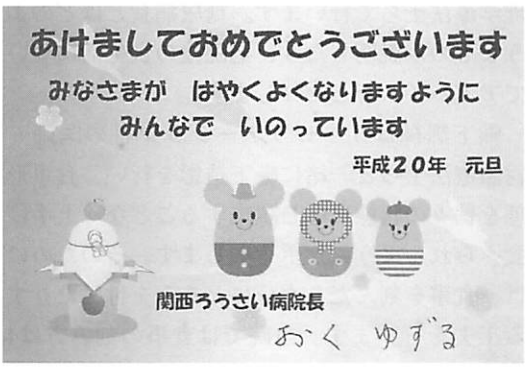

図2　患児向け

Ⅲ．栄養管理

栄養管理は一言では表せないぐらい多彩な業務です。大きく2つに分けると、患者の病態に合わせて食事を工夫（オーダーメイド）することと栄養指導です。

当院の食事は275種類あり、その中から主治医が選択します。摂取量をあげ、良い栄養状態を保つために、その食事が患者にとって適切かどうか考え、食べづらい時には主治医や看護師

わだ　ゆきえ：関西労災病院 栄養管理室

と相談して栄養状態を改善させるよう工夫します。

一口に「食べづらい」と言っても、病態をはじめとして、患者個々に訴えは異なります。例えば、化学療法中で吐き気がする、嚥下がうまくいかない、下痢が止まらないことや、義歯が合わない、放射線治療中で痛くて食事がのどを通らない・臭いが気になる・口内炎ができてしみる、アレルギーがあり食べられないものがあるなどです。患者は元気になりたい、頑張って治療を受けたいと思っているため、思うように食べられないというのは本当に辛いことです。そんな患者の訴えに耳を傾け、いかに工夫をして食事を提供するかは重要なことです。

また、管理栄養士は栄養管理を医療チームの中で行っています。管理栄養士が携わっているものは次のとおりです。

糖尿病患者のサポートは糖尿病内科医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・歯科衛生士・理学療法士らで行います。糖尿病食とはどのようなものか説明したり、退院後の食生活についてアドバイスをしたりします。

嚥下訓練はリハビリテーション科の医師・言語療法士らと一緒に嚥下造影を行い、食事形態を個々の状態に応じ誤嚥することなく上手に食べられるようにサポートします。そのためには、食事を刻んだり水分にとろみを付けたりする工夫を行います。当院では食事の刻み方は4段階あり、水分のとろみの付け方も強めや緩めといったように患者個々の嚥下の状態に合わせて調節します。

褥瘡チームは主として形成外科・リハビリテーション科・脳外科の医師・看護師・薬剤師からなります。褥瘡ラウンドを週1回行っており、患者の状態に合ったケアや栄養状態・食事摂取状況などを討議し、よりよい栄養状態になるように検討します。

患児へのサポートは、主に小児科の医師・看護師・薬剤師と行っており、年齢や病状に合わせた食事を出せるよう工夫します。食事相談としてアレルギーの除去の程度、離乳食の進め方、偏食をなくすような料理の工夫といったアドバイスを保護者へ行っています。また、病棟行事ではテーマに沿ったおやつを用意します。

緩和ケアチームは主に外科・心療内科の医師・看護師・薬剤師・歯科衛生士からなり、ここでは症状コントロール中心の治療を行っています。症状に合わせたきめ細かい食事を提供するほか、特別メニューでは患者の希望に沿う食事を、また誕生日などの記念日には祝い膳を用意し、家族や病院スタッフと一緒に祝います。

NSTは主に外科・内科の医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・歯科衛生士で構成されており、全診療科の栄養サポートを行います。栄養管理が難しい患者に対してそれぞれの視点から意見を持ち寄り、討議を行いながらラウンドしています（図3）。

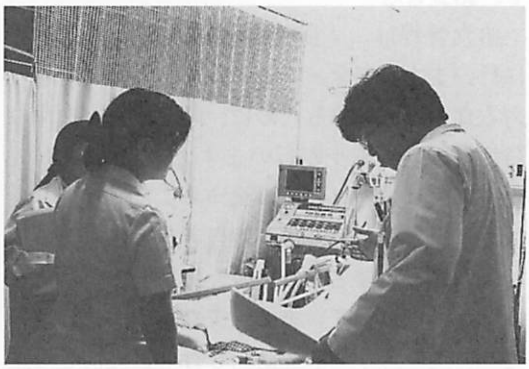

図3

栄養管理は生きていく上で切っても切れないものです。管理栄養士はさまざまな角度から患者の病態に応じた栄養管理を行っています。入院中サポートしている患者に自宅での食事を栄養指導し、退院後もサポートを行うことがあります。外来通院のみの患者にも医師の指示により栄養指導を行います。

このように、栄養管理は栄養指導を行うことでいかにいい栄養状態を保ち、健康になれるかが一番の目的です。

Ⅳ．図書室の利用について

近年、栄養管理の重要性と管理栄養士の役割が多岐にわたることは理解されてきました。しかし、“栄養”においては根拠に基づいたデータはあまり出ていないのが現状です。通常は学会のガイドラインに沿って食事療法を行いますが、患者の中にはサプリメントや健康食品といった情報収集の困難なものを使用している場合があります。また食事はお薬と違い患者が自分で選択するため、把握することが困難なものが多いのが現状です。今後はそういったものに対する確実な情報収集ができるような図書室にしていただけると大変うれしく思います。